

～ 支援に応じて養豚農場の経営再建 ～

(取組主体名) 有限会社 岩徹養豚
(所在地) 青森県おいらせ町二川目地区

～ 復興取組事例 ～
東日本大震災農業生産
対策交付金活用事例

<平成30年8月 一部更新>

■ 組織のプロフィール

有限会社岩徹養豚は、昭和52年に起業し、57年11月に法人化（平成14年認定農業者）。

経営規模（平成29年実績）は、母豚250頭の一貫経営で、年間出荷頭数は6,530頭、出荷額は約2億4千万円。

被災の概要

- ・二川目地区の沿岸部は、津波により浸水やガレキの飛散等甚大な被害。
- ・当該法人の豚舎6棟のうち5棟が全壊するなど養豚施設はほぼ全壊。2,150頭の豚も約7割の1,500頭が津波により死亡し、残った豚も施設が全壊したためやむなく処分。

1. 取組のきっかけ

- 震災で財産の大半を一瞬にして失い、将来も見通すことができない状況下であって、瓦礫処理に駆けつけてくれた近隣の人たちやボランティアからの励ましをいただく中で心境が変化し、多額の負債を抱えての経営の再建を決意。「支えてくれた人に恩返しをしたい」との思いとともに経営に参加してくれる二人の子供たちも再建の支えとなった。

2. 取組の内容と特徴

- 震災1ヶ月後の4月には農場再建の意志を固め、23年8月に東日本大震災農業生産対策交付金の活用を決定。
- 震災以前から事業規模拡大のため確保していた内陸部の用地に移転し、効率的な飼養管理システムの導入による低コスト化経営を目指して用地造成及び養豚施設（豚舎、堆肥舎、自動給餌装置ほか）の整備を実施（事業費385,350千円、うち国費183,500千円）。平成24年9月に工事完了。

経営再開の状況等

- ・東日本大震災農業生産対策交付金を活用した養豚施設が平成24年9月に完成。

<飼養頭数>

- ・母豚250頭（H30.2月現在）

<出荷頭数>

- ・6,580頭（H29.2～H30.1実績）

3. これまでの苦労話

- 被災当初は、再建資金や補助制度に関する情報がなかったが、県の出先機関やおいらせ町からの助言・指導を受け、金融機関との連日の打ち合わせを行って事業計画を検討。震災前から土地を確保していたこと、被災前には大きな負債がなく、金融機関からの融資を受けることができたことが再建の大きな力となった。

参考資料 [有限会社 岩徹養豚]

現場写真



移転建設した養豚施設(事業対象施設)



(有)岩徹養豚
岩崎社長
「地域の方々に恩返しをしたい。」という強い気持ちで再建を決意。



開閉可能式の肥育舎(事業対象施設)



堆肥舎(事業対象施設)



施設内部(繁殖舎)



施設内部(肥育舎)

- ・平成23年6月 津波の犠牲になった豚1,500頭を供養。
- ・平成24年3月 おいらせ町の震災復興祈念イベントで支援の恩返しとして豚汁を提供。
- ・平成24年9月 移転建設した養豚施設完成。